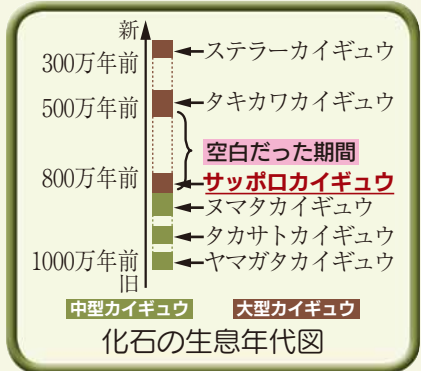


学術的にも貴重な世界最古の大型カイギュウ

当時、カイギュウの化石はアメリカや日本国内で多数発見されていました。北海道内でも既にタキカワカイギュウやヌマカイクウなどの化石が発見されていました。これらの化石から、カイギュウの起源や進化についての研究が行われていましたが、サッポロカイギュウの発見は、カイギュウの進化の解明に大変大きな役割を果たすことになりました。

サッポロカイギュウは、体長7〜8mの大型ですが、その先祖は体長4〜5mの中型だったとされています。

サッポロカイギュウが見つかるまでは、日本で最も古い大型カイギュウの化石（タキカワカイギュウ）と最も新しい中型カイギュウの化石（ヌマカイクウ）の生息年代には、およそ300万年の空白期間があり、この間の化石は発見されていなかったため、カイギュウが大型化したのはいつなのか分かりませんでした。



化石はいつやっつてみるの？

そこに、空白を埋めるサッポロカイギュウの化石が発見されたことで、カイギュウが寒冷な環境に適応し大型化した時期を確定するための、大変貴重な発見となりました。また、大型カイギュウは、北アメリカ大陸からも見つかっています。70万年前より古い資料は発見されていなかったことから、サッポロカイギュウは今のところ、世界で最も古い大型カイギュウといえることとなります。

動物が死んだ後、ずっと露出したままであれば、分解したり食べられたりして化石として残りません。しかし、体

化石を発見できるかも！

の一部が残っているうちに、砂や泥などが積みもり、長い年月の間に、歯や骨などが化石になります。こうしてできた化石も地中にある限りは発見されません。大地が変動したり、川で浸食されたりして、地中に埋まっていた化石が顔を出すことで発見されるのです。このように化石は、長い年月をかけて偶然に偶然が重なって発見されるのです。

南区内を流れる豊平川の小金湯から十五島公園上流ぐらまでの河川敷では、貝の化石や生痕化石（生物が生活した跡の化石）などが多く発見されています。化石は、見慣れないこととありますが、貝の化石などは注意深く見ることで見つかることができます。何気なく見ていた石の中に、もしかすると太古の痕跡が刻まれているかもしれません。いつもとは少し違う視線で自然に親しむことで、新たな発見ができるかもしれません。

サッポロカイギュウの化石が見たい！

サッポロカイギュウの化石や骨格復元標本は、札幌市博物館活動センターで見ることができます。また、化石を見つけたけれど調べ方が分からないというときには、同センターに化石を持っていくと、学芸員に相談することができます。

同センターでは昆虫や植物の標本などを展示しているほか、体験学習会も行っており、さまざまな形で札幌の自然を学ぶことができます。

札幌市博物館活動センター

場所 中央区北1条西9丁目
リンケージプラザ5階

開館時間 午前10時～午後5時

電話 ☎200-5002

休館日 日・月曜日、祝日、年末年始

ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/museum>



▲南区砥山で行われた化石発掘体験（博物館活動センター主催）



▲貝の化石（ソデガイの仲間）▲

